

北九州市における市民参加による水際線利用の検討について

北九州市港湾局企画部計画課 松山 洋

1. はじめに

これまで港湾施設の多くは、生産・物流といった産業の効率性、国土保全や災害からの安全性の確保などに重点を置いて整備されてきた。臨海工業都市として発展を遂げてきた北九州市の水際線の多くも、港湾物流や民間企業の生産の場として利用され、ほとんどが一般市民が立ち入れないものとなっていた。

このような状況のなか、本市では海辺に対する市民ニーズの高まりなどを受け、平成6年から、市民が日常生活の中で自由かつ安全に海や港の魅力に接することができる水際線整備に取り組んできた。

平成14年2月には、社会情勢の変容や市民ニーズの多様化に対応して、市民参加による整備や利用方法の検討を盛り込んだ「海辺のマスタープラン2010」を策定した。

ここでは、本市での市民参加の最初の取組みとして昨年度から実施している、地蔵面人工海浜（平成16年度完成予定）におけるワークショップ（以下、WS）を通じて、これからの市民参加による水際線づくりの進め方について提言したい。



2. 「海辺のマスタープラン2010」(平成14年2月策定)について

2.1 北九州市の水際線の現況

本市の水際線総延長約210kmのうち、約73%にあたる約155kmは人工海岸である。

このうち人工護岸110kmを対象に整備に取り組んできており、市民が自由かつ安全に接することのできる水際線延長は、平成6年当時の約2kmから平成14年度末には約10kmとなった。

2.2 海辺のマスタープラン2010の基本方針(図-2)

本マスタープランでは、さまざまな市民ニーズに応える多様な水際線の利用ができるよう、市民が身近に接することのできる水際線を、2010年までに25km整備することを目標としている。

また、メリハリのついた整備を行うために、広域的に多くの人を訪れるような魅力あふれる「拠点エリア」と、地域住民の利用を重視した「地域密着型エリア」とに区分することとしている。

さらに、市民が気軽に利用しやすく、安全で魅力的な水際線を創出するために、計画

づくりから整備、既存施設の利用のあり方まで、さまざまな段階での市民参加を進める。

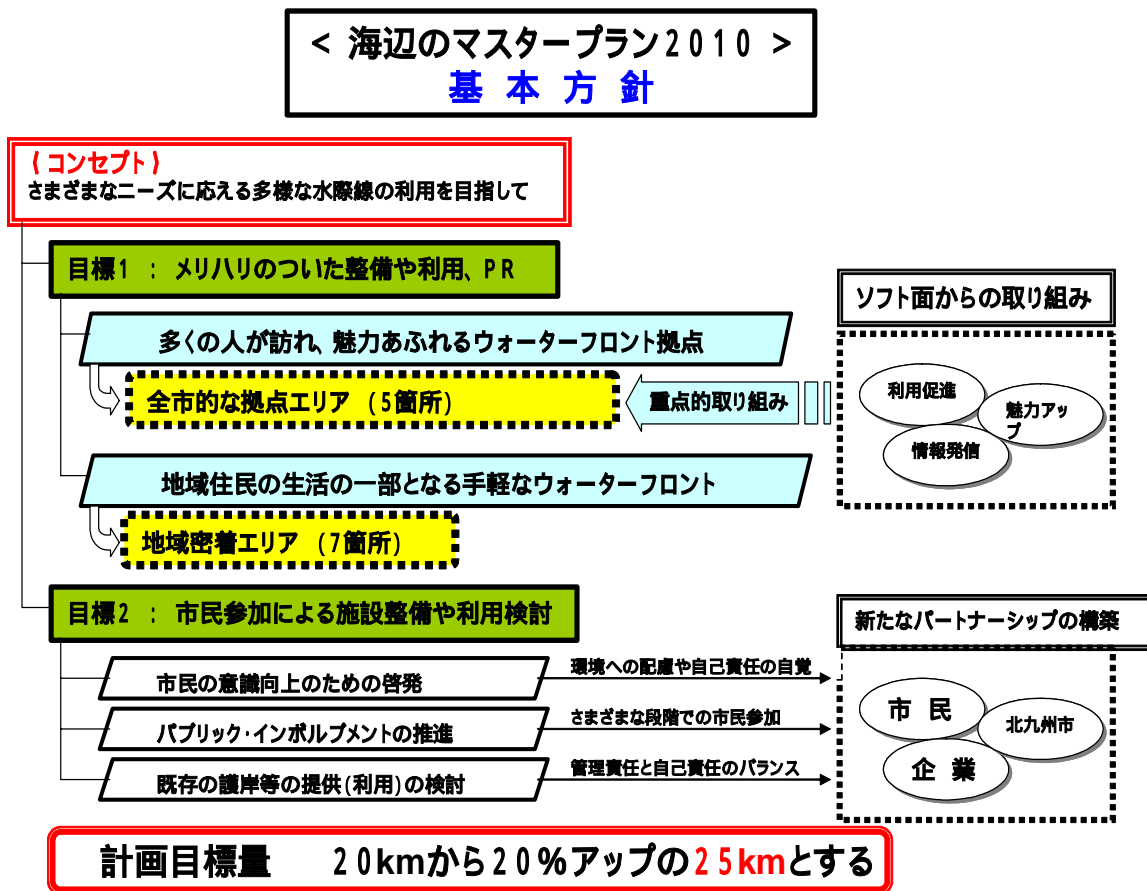


図 - 2 「海辺のマスタープラン2010」の基本方針

3. 地蔵面人工海浜における市民参加の取組み

3.1 地蔵面人工海浜整備事業について

事業目的：マリンレジャーの拠点となる
海洋性レクリエーション施設を目指す
事業名：海岸環境整備事業
事業期間：平成2年～平成16年
所在地：北九州市門司区猿喰地先
整備内容：人工海浜、遊歩道、緑地（駐
車場、展望デッキ、植栽等）



図 - 3 地蔵面人工海浜

3.2 市民参加の取組み

3.2.1 本施設での市民参加の流れ

本施設での市民参加の取組みは、(H13)市民参加プログラムの検討 (H14) 子供WS (H15) 大人WS (H16) 施設の供用開始、の順に行う。

3.2.2 平成14年度に実施した「子供WS」の概要

参加者 地元小学校4校（5年生・115名）における「総合的な学習の時間」を利用し、平成14年6月から平成15年1月まで計5回実施した。

各回の内容

第1回：生徒の生活圏（自宅や学校）と現地とのつながりを考える地図づくり

第2回：現地とその周辺の景色や海の生物の観察を行うフィールドワーク

第3回：現地のできる事、あれば楽しいもの、などの利用イメージの検討

第4、5回：各校の利用イメージに沿って、ゲストティーチャー（県内在住の造形作家やイラストレーター）による指導授業で、現地へのアクセスマップづくり、遊具や利便施設、及び既設護岸の壁面デザインの模型作成

成果発表会及び展示会の開催

4校の生徒が作成した作品の一部を図-4に示す。



パラソルとベンチ



護岸から海辺におりる滑り台



護岸壁面のレリーフ



現地周辺のアクセスマップ

図-4 生徒たちの作品（一部）

子供WSでは、父兄や地元住民を招いて4校がお互いの成果を報告しあう発表会及び各校の作品を市民に紹介するため、一週間の常設展示会を開催した。

3.2.3 子供WSから得られた成果

子供WSを通して得られた成果及び課題を以下にまとめる。

成果： 発表会に参加した大人からは、地域住民とのWS開催の要望も出され、市民参加の取組みに対して前向きな姿勢が見受けられた

発表会の開催はマスコミの報道などもあり、施設のPRにも寄与できた
 公共施設の計画を通じて、小学校の先生達と行政との協働関係が構築できた
 小学生に対して、公共施設の計画づくりという机上で学ぶことができないこ
 とを体験的に学習する機会を提供できた

課題： 「総合的な学習の時間」を利用した活動は小学校にとっても初の試みで担任
 の先生の不安や負担も大きく、小学校側と行政のきめ細かい連携が不可欠
 小学生の提案を整備に具体的に反映させる方法、また小学校や地域の意見
 を取り入れた施設としてフィードバックしていく方法を検討する必要がある

3.2.4 大人WSについて

市民参加のみなとづくりの次の段階として、8月30日から年末まで5回の予定で大人WS
 Sを実施している。地域の大人、小学校関係者、高校生ボランティア、まちづくり市民団
 体などが参加し、施設の利用方法や子供のアイデアの実現方法などを話し合っていく。

第1回の内容

WSの開催趣旨や本施設の整備内容の説明を行った後、まずは施設や周辺地域につ
 いてのそれぞれの思いを自由に出しあった。なかには、施設整備に関わる行政の姿勢
 に否定的な声もあったが、多くの参加者からは、地域の財産となるような施設のあり
 方を真剣に考える姿勢、子供のアイデア実現への意欲が伺い取れた。

今後の進め方

本WSでは、地域の関心を高めるため、WS開催の都度、「活動だより」を作成し、
 参加している人々だけでなく、小学校PTAや地域自治区会を通じて広く広報し、地
 域との情報の共有に努めることとしている。

4.まとめ

これまでの経過を通じての考察及び提言を次のとおりまとめる。(図-5)

子供WSは、「みなと学習」の
 新しい形であり、子供が地域や
 施設への愛着を持つきっかけ
 づくりにつながると考えられ
 る。

子供たちがまず活動すること
 が大人に対してもよい刺激を
 与え、長期的に見て住民主体の
 水際線づくり、まちづくりの素
 地が高まることが期待できる。
 基礎的なコミュニティ媒体で

ある小学校を通じて協働関係を築くことで、地域と行政の新しいコミュニケーション
 ネットワークが構築できると考える。

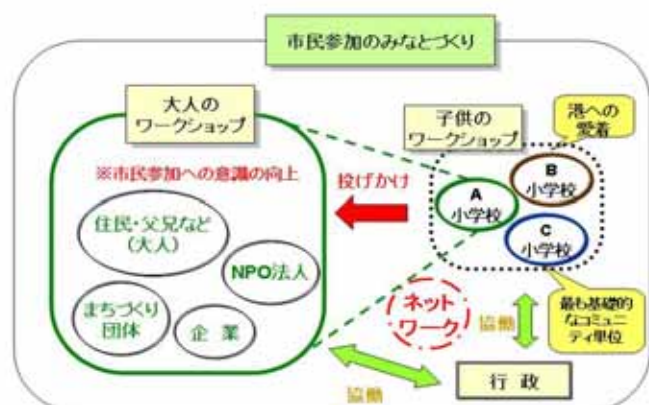


図-5 「市民参加のみなとづくり」の提案